<事業名> 上山高原周辺の景観資源を活用した魅力向上事業

団 体 名	NPO 法人上山高原エコミュージアム 兵庫県美方郡新温泉町	
所 在 地		
代表者名	代表理事 中村 幸夫	

上山高原周辺の自然環境を活用して、自然再生活動、四季の自然体験プログラムを企画 して、自然にふれあい、自然環境学習等に繋げていくため行事を開催する。

山焼き、上山散策、扇ノ山新緑登山、霧ケ滝トレッキング、歴史的資源の活用(明治の 水路の散策)

高原キャンプ、冬期間の活動(雪上ハイキング、カンジキハイキング、かまくらまつり)

- ○上山高原山開き・山焼き(4月17日雨で延期、23日開催)
- ○扇ノ山登山(5月15日:参加20人、6月17日:参加14人、10月23日参加34人)
- ○霧ケ滝渓谷トレッキング(6月5日:参加13人 9月30日:参加20人)

○明治の水路散策(6月13日:参加11人) 事

- ○シワガラの滝トレッキング(6月 27日:参加 20人、9月 23日:参加 34人)
- ○高原キャンプ (7月17~18日:参加13人)
- 内 ○ススキ草原ハイキング (10月30日:参加8人)
- 容 ○畑ケ平林道ハイキング(10月31日:参加36人)
 - ○正月飾りつくり (12月11日:参加4人)
 - ○正月の寄せ植え(12月12日:参加15人)
 - ○かんじきハイキング(4年1月16日:参加9人、2月13日:コロナにより中止
 - ○かまくらまつり(4年2月12日:コロナにより中止

各事業実施について、それぞれ事前にチラシ、ホームページ作成などで PR を行った。

- ・事業参加者のリピーターにも情報提供を行った。
- ・新温泉町との連携で、町広報にも掲載
- ・エコ情報誌「ほっとニュース」を年4回発行し、PR に繋げている。

地 域

事

業

ഗ

効

業

①団体(組織)内の効果

- ・山開き・山焼き:ススキの再生、山野草の再生、生物の多様性ある上山の草原つくりに 貢献している。イヌワシの餌場としての高原維持につながっている。
- 各種プログラムによって、上山高原周辺四季の自然を体験していただき、貴重な山野草、 ブナなどの広葉樹の森体験、歴史の資源を PR し、自然環境の持続に繋げる活動となっ た。
- ②地域への効果

地域資源を活用して、山歩き、滝巡りなどの交流活動で地域内の貴重な資源を紹介し、 交流人の誘致に努めた。交流人との交流によって賑わいが生まれている。

		4月23日	上山高原山開き・山焼き
事		5月15日	扇ノ山登山
業経過		6月 5日	霧ケ滝渓谷トレッキング
		6月13日	明治の水路散策
		6月17日	扇ノ山登山
	<u></u>	6月27日	シワガラの滝トレッキング
		7月17~18日	高原キャンプ

後	
の	
課	
題	
等	

今

	9月23日	シワガラの滝トレッキング
	9月23日	ンソカノの種トレツヤンク
	9月30日	霧ケ滝渓谷トレッキング
事	10月23日	扇ノ山登山
業	10月30日	ススキ草原ハイキング
経	10月31日	畑ケ平林道ハイキング
	12月11日	正月飾りつくり
過	12月12日	正月の寄せ植え
	4年1月16日	かんじきハイキング

協働相

・新温泉町、奥八田地域づくり協議会、各集落などとの連携強化

〈事業を実施する上での課題〉

- ① 団体(組織)の課題
- ・ふるさと館から、各登山口ハイキングコースまで、車での移送が必要であり、それらの費用がかさ みます。
- ・各種プログラム参加者に変動があり、収支が厳しい。ピーアールなどを充実していく。
- ・京阪神等、遠距離での参加者には安全な参加を呼び掛けている。

② 地域の課題

- ・私たちの行事は、屋外が多いため天候に左右されます。当日の天候を予測しながらの開催になり、参加者への連絡体制を充実させたい。
- ・獣害が深刻になっている。行政の指導を受け、地域でスクラムを組んで取り組む施策を研究していきたい。

〈令和4年度以降の事業計画〉

- ・3年度の事業の反省、課題などを整理して、次年度の計画を企画します。
- ・山野草、ブナ林などの広葉樹、ススキ草原、山々の四季の移ろいなど、残されている自然のピー アールをしていく。
- ・特に、イヌワシの棲息地でもあり、繁殖できる環境づくりに貢献したい。



6月5日 霧ヶ滝渓谷



7月17日 キャンプ



6月27日 シワガラの滝



10月30日 ススキ草原